

主題聖句: イザヤ 6:11 「私は言った。『主よ、いつまでですか。』主は言われた。『町が荒れ果て、住む者がいなくなり 家には人が絶え その土地が荒れ果てて崩れ去る時まで。』」。

<序>

ちょうど一年前の7月4日、球磨川(熊本豪雨)ボランティアのため芦北町役場で地図を広げて被害状況を教えてもらっていた¹。市房ダムに行ってみると放流の爆音が大きく、動画をすぐにフェイスブックに発信した。あれから、当初は独居の高齢者の被害の家屋に、隔週に一回、がれき撤去、ドロ出し、畳替えに向かった。先月6月20日から、神戸国際支縁機構のメンバー8名は、地元の園児たちと一回目の相良さがるにおける田植えに仕えた²。16回目の訪問であり、地元の被災者たちは家族のように受け入れてくださる。女性参加者も家に泊めていただく。10月には「復幸米」の収穫も園児たちと楽しむ予定である。「私はあなたがたの地に、秋の雨や春の雨など、必要な時期に雨を降らせよう。あなたは、穀物、新しいぶどう酒、新しいオリーブ油を収穫するだろう」(申命記 11:14)。

草原において、ひとが適度に手を加えることによって保たれてきた植生に、田植えをする。水の流れと人の「間」を流れる里川が開発、技術、人間の暮らし優先で悲鳴を上げている。

2013年7月7日から約1週間、豪雨が中国四川省を襲った。中国の古都である成都から震源地まで200キロ。汶川県(ワントゥアン)にあるチベット系少数民族羌族の集落蘿蔔寨[らふくさい]の被災現場を筆者は訪問³。帰途、治水の神様大禹[紀元前2123-2025]の立像を見た⁴。洪水災害に対する中国人民軍の迅速な対応と日本のゼネコンの効率、能率、プロジェクトの差異を目の当たりにした。日本ならば復旧、復興、再建において数ヶ月要するような橋、高速道路、トンネルの陥落を数時間で処理することに度肝を抜かれた。日本もかつては大陸中国文明を父として、半島朝鮮文明を兄として、「科挙」制度、漢字、儒教などから学んできた。とりわけ治水、里川、防災は現代でもモデルとして見習うことが多い。

近年、神戸国際支縁機構が訪問した被災現場で見聞きした災害原因に共通するものがある。砂防ダム決壊、ダム放流、河川の護岸工事の稚拙さが原因としか考えようがない⁵。しかし、残念なことに、日本の限界集落において、土木事業は生き残るために自然を破壊してでも、経済を優先させている。集落、村、地方都市の存続のため、マネーの前に首長たちは屈服している。現在、日本一の清流と言われる川辺川に国交省はダムの建設をすすめている⁶。

果たして、人間の造ったコンクリート製の河川、テトラポット、防潮堤は安全、安心をもたらすのだろうか。

¹ 『神戸新聞』(2020年7月18日)。

² 『人吉新聞』(2021年6月26日付)。

³ 拙論『中国四川省被災地訪問報告』(2013年7月)。

⁴ 大禹は「黄河を治むる者は天下を治む」と黄河の治水家として日本各地でも崇拜されてきた。古代中国の初代王になれたのも中心地であった黄河の治水を成し遂げた功績に負う。作物の被害を食い止めた。『古事記』(712年)、『日本書紀』にも聖人君子の譬喩として描写されている。中国の三峡ダムについては、拙論『レビヤタンの正体(2)』参照。

⁵ ダム関係災害 丹波水害(20140815 死者 2)、鬼怒川(20150910 死者 14)、益城(20160414 死者 20 [関連連 218])、松末(20170705 死者 40 不明 2)、真備(20180706 死者 51 不明 3)、小屋浦 4丁目(20180706 死者 20)、北海道厚真町(20180906 死者 36)、球磨川(20200704 死者 52)、など。

⁶ 『人吉新聞』(2020年8月26日付)。国土交通相は川辺川ダムがあれば甚大な被害4割減と試算。

目次

- (1) 熱海土砂災害の実態
 - a. 初日の現場の呻き 2
 - b. 現場に支援物資 3
 - c. 被災者の声 3
- (2) 土石流の原因は何か
 - a. 豪雨, 盛土, ソーラーパネルではない 4
 - b. ダムは利水, 治水に役立つのか
 - c. ダムがあるゆえの被害
- (3) ダムは諸悪の根源
 - a. 公共事業の罨
 - b. 脱ダムの世界的な潮流
 - c. 水利権はみんなのもの



熱海市伊豆山般若院裏側
2021年7月4日

(1) 熱海土砂災害の実態

a. 初日の現場の呻き

熱海に3人のボランティアが神戸から向かった。7月3日午前10時半ごろ静岡県熱海市伊豆山^{いずさん}で、土石流が発生。逢初川に沿って住宅や建物を押し流し、約2^{キロ}下の伊豆山港まで到達。131棟(128世帯)が被害を受けた。3日午後、伊豆山港の海で心肺停止状態の2人が発見され、続く数は20名を越すだろう。土砂は扉をなぎ倒し、室内に陣取っていた。住宅の2階に届くなど高さ4~5^{メートル}に及ぶ⁷。

⁷ 『朝日新聞』(2021年7月4日付)。

b. 現場に支援物資

4日、賀川豊彦が始めたコープ、今井鎮雄⁸(元 YMCA 総主事)が設立に寄与した神戸市社会福祉協議会、フードバンクや、「耕支縁」などからの支縁物資などをもって、熱海市役所を訪問。約 500 名が最大のホテルに避難、高齢者など弱者約 50 名は別のホテルだと齋藤栄市長室で「安否不明も実数が把握できず、100 名ほどだ」と鈴木英明室長から聞いた。



c. 被災者の声

熱海市民である被災者は、「川のない山から土石流が押し寄せ、近所の家屋も流された」、「雨も隣の伊東市などちがってわずかであったのに」、「わずか 10 分ほどでご近所の家も流された」と恐怖体験を語った。「石や倒木が混ざった土石流が押し寄せて来た。その 10 分ほどに後にもう 1 回」⁹。

4 日にお出合いした市民の声は「たいして雨が降らなかったのに」だった。報道も一時間に 30 ミリ以上の「激しい雨」は観測されなかったと報告している¹⁰。静岡大の牛山素行教授(災害情報学)も、「今回は短時間に集中的に降る時間帯があったわけではなく、2 日くらいにわたってそこそこの強さで降り続いた。厳しく警戒するタイミングを計るのが特に難しい降り方だった」と同紙で語っている。



向かいの家屋は
跡形もなかった。

⁸ 『神戸と聖書』(岩井健作 神戸新聞総合出版センター 2001 年 145-148 頁)。

⁹ 『朝日新聞』(2021 年 7 月 4 日付)。

¹⁰ 同 (2021 年 7 月 4 日付)。

避難所であるニューフジヤホテルの 40 代の女性は、「目の前でさきほどまでであった方の家が転がっていた」と語った。別のニューアカオホテルは老人ホームなどの施設からの人たちが占めていた。ライフラインが解決するまで、生活するホテル避難は、睡眠、食事、サービスが整っており、学校などの体育館にはない配慮が行き届いている。費用は市が負担する。コロナ禍のため旅行者が撃滅しているホテル関係者にも雨降って地固まる式の恩恵だと耳にした。ホテル等は病床不足にも対応できるだろう。

(2) 土石流の原因は何か

a. 豪雨、盛土、ソーラーパネルではない

今回の熱海土石流は明らかに人災である。豪雨とか、保水力がなくなったことが一番の理由ではない。

熱海市民に知られていない 1999 年に建造された細いコンクリート三面壁の逢初川(あいぞめがわ)の上流にある砂防ダムが元凶である。伊豆山はわずか 400 メートルの高さ、勾配も 10 度弱のゆるやかな傾斜である¹¹。雪山ならスキーも楽しめない角度である。神戸市都賀川の水難事故と同じ現象である¹²。ジェットコースターのように細い三面壁の逢初川が一気に海に向かって滑り落ちたとしか言いようがない¹³。このダムは容量が 4 千立方メートル。しかし、あふれ出た土砂はわずか 10 分ぐらいで海岸までの 2 キロを土石流として人家などをなぎ倒した。土砂は約 10 万立方メートルに及ぶそう。

完全な人災である。もっとも国交省など「お上(かみ)」は認めないだろう。しかし、全国には砂防ダムなどの無用の長物は 100 ヶ所以上あると私たちは考えている。2,3 年で堆積物がたまり、使途が終わり、次に、上流に別の砂防ダムを建造する。いつ同じ様な災害が起きてもおかしくないのが日本列島である。



コンクリート三面壁の逢初川と
決壊した砂防ダム
2021 年 7 月 5 日

¹¹ 伊豆山地は標高 400 付近の最上部から海まで、ほぼ一定の勾配(約 11 度)。『朝日新聞』(2021 年 7 月 13 日付)。

¹² 拙論『キリスト教と防災』(関西学院大学 2019 年 12 月 14 日 8-9 頁)。

<file:///C:/a%20%E4%BD%9C%E6%A5%AD%E3%83%89%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%96/My%20Thesis/20191227%20%E3%80%8C%E3%82%AD%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%88%E6%95%99%E3%81%A8%E9%98%B2%E7%81%BD%E3%80%8D%E3%80%8C%E3%82%AD%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%88%E6%95%99%E3%81%A8%E9%98%B2%E7%81%BD%E3%80%8D.pdf>

天才か人災か 拙論『危機の時代から刷新の時代へ』その二 ―見捨てられた松末―(神戸国際キリスト教会 2019 年 3 月 31 日 6-9 頁)

<http://kicc.sub.jp/wp-content/uploads/2019/06/23101a78797710aae33fd37b048eb0b8.pdf>

¹³ 「土石流が横に広がらなかった分、破壊力が集中したのではないか」と山口大の山本晴彦教授(環境防災学) 『朝日新聞』(2021 年 7 月 13 日付)。

b. ダムは利水、治水に役立つのか

ダムのメリットとして、発電、灌漑、洪水制御、観光についてよく耳にする。日本の公共事業を推進するチャンピオンに藤井聡[さとし 1968-]氏がいる。茶の間のテレビにコメンテーターとしてよく用いられている。筆者はテレビを見ないから、頻度についてはわからない。藤井氏は第2次安倍晋三首相政権の6年近くブレーンとして務めた京都大学大学院教授である。『文藝春秋』(以後: 文春)2020年9月号などで熊本県球磨川の支流川辺川ダム必要性を強弁している。藤井氏は、利水と治水にダムが貢献すると財・官・学の「お上(かみ)」のスポークスマンの旗振り役のひとりである¹⁴。著書『公共事業が日本を救う』の105ページで、「ダムに水を貯めておけば、雨が降っても降らなくても、川を流れる水の量をおおよそ一定に保つことができ、川が『涸(か)れ上がる』のを防ぐことができる」と利水効果を述べている。107ページでは、「『ダム』をつくっておくと、必ずしも『すべてのところで完璧な対策』を行わなくても済むようになる」との治水効果を説明する。藤井氏は、文春の236ページでは、「川辺川ダムを中止した後の治水対策、『10年以上にもわたって、球磨川流域のあまりにも危険な状態をそのまま放置した』という『不作為の罪』はあまりにも重く、責任を厳しく問わなければならない」とダム反対派住民のために、河川を放置する羽目になったと非難する。はたしてそうなのだろうか。国がダムを推進するために、既存の堤防を脆弱な構造のままに放置していた真実を調べず、お上の代弁者になっている。石崎勝義工学博士は、「政府は熊本県や住民にダム受け入れを迫ったが、これが受け入れられないとみるや河川改修をほとんど進めなかった。改修工事実施である河川整備計画の策定を怠って、地元で川辺川ダムを認めるよう暗黙に圧力をかけたのだ」と国土交通省の陰謀を暴露している。球磨川水系河川整備計画で堤防強化策を言い出しておきながら、国土交通省は治水計画を策定しなかったのである。ダム事業に固執した国土交通省近畿地方整備局の施策について、「ダム反対派がフロンティア堤防ができれば川辺川ダムは不要であると主張するようになると、国は2002年度、フロンティア堤防の工事費の予算化を見送った。……堤防強化策は河川堤防設計指針としても、治水の現場でも、抹殺されていった」と陰謀論が指摘されている¹⁵。国交省は、「人吉層という軟岩層が露出して河床が安定せずに護岸や橋脚が保持できないから人吉地区の河床掘削はできない」と主張していた。「国は、水底をさらって土砂などを取り除く浚渫(しゅんせつ)を怠っていた」と相良村役場教育長緒方俊一郎氏は語る¹⁶。つまり国はダム建設に反対した腹いせとしか思えない仕打ちをしている。川辺川の川底の掘削をせず、放置したままであった。

c. ダムがあるゆえの被害

文春の238ページで、藤井氏は、「我々の先祖は、自然を自然のままに放置していたわけではなく、……人工的につくられたダム湖も、観光地になったり、休日に楽しむ場所になったりと“新たな自然”として、我々の生活に徐々に定着していくものです」と、自然を切り崩す公共事業がいいんだという方向に文春読者を引きずり込む。ダムが自然にとっていかに無慈悲かを隠す論法である。

2020年7月4日の球磨川流域の氾濫で最大の犠牲者が出た地域は、川辺川ダムがあるかと、なかろうと関係がない。球磨川と支流の川辺川の合流点より上流の広範囲に及んでいる。道か川か判断できないところを4日芦北町から球磨村に道路寸断のため、行けず、迂回して人吉市の中心街に入った。停電の

¹⁴ 『公共事業が日本を救う』(藤井聡 文春新書 2011年 102-130頁)。

¹⁵ 相次ぐダム建設中止の中で消えた堤防強化策。『科学』(あさのあつこ 岩波書店 2020年9月号 769頁)。あさのあつこ[1954-]は、小説家、児童文学作家。小説『バッテリー』、野間児童文芸賞、日本児童文学者協会賞受賞。「川辺川ダム計画を代替する治水策を盛り込んだ球磨川水系河川整備計画を策定しないまま、現在に至る」と言及(同 770頁)。

¹⁶ 「清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会」(略称・手渡す会)共同代表。

ため、前方に何があるかわからず、泥をかき分けて走った¹⁷。翌 5 日朝 8 時にお会いした国宝・青井阿蘇神社の福川義文宮司は語った。「なんの 2 階へんまで水の来うきや」と思っていたと、しかし、「がんばり」、膝までみるみるうちに泥があふれてきて、座ることもできなくなった、と語った。青井町には飲食店、温泉、ホテル、酒屋、コンビニ、鮮魚店、青果店、散髪屋、洋服店、花屋などがあつた。すべて泥に埋まってしまい、乗用車などが倒立、重なり合い、現地での 2 日目には何をすべきか予測がつかない。自衛隊もボランティアもまだ到着していない時だった。「あなたがたは明日のことも、自分の命がどうなるかもわからないのです。あなたがたは、つかの間現れ、やがては消えてゆく霧にすぎません」とあるように虚無感が襲った災害現場だった(ヤコブ 4:14)。

筆者は 16 回の訪問を通じて、人吉市でお会いした住民のほとんどから市房ダム放流の本音を聞かされた。当初、国交省は、午前 8 時半に緊急放流する予定だったのを 9 時半に延ばしたが、結局、放流はなかった、という反応だった。しかし、炊き出しで知り合った下新町の園田紀子さん(72 歳)から深夜放流のサイレンが鳴っていたと市民はうわさしていると、2020 年 9 月 5 日に教えていただいた。翌日、新聞を手にして、「やはり市房ダムは放流していたことが載っていますわ」と新聞を見せてくださった。確かに、「事前にダム水位を低下」と目に入った¹⁸。

川辺川ダムができるならば、球磨川の観光シンボルとなっている舟下り¹⁹、カヌー、ラフティングの利用者には、魅力がなくなってしまう²⁰。

人吉市は東京、大阪や福岡市などの大都市と異なる。球磨川流域には 79 集落が点在している。林道は 133 か所の被害、農地は土砂堆積により、クリなどの樹園地を含めて、810 カ所(90 ヘクタール 23 億円)の被害に達した。農道、用水路や堰(せき)などは 207 カ所(17 億 4700 万円)の損害である²¹。つまり、林業、農業などの第一次産業は、川辺川ダムがあれば被害を大幅に食い止めることができたのか。ダム賛成の学者はともすると現場に足を運んでいない。机の上で、群衆になるほどと思わせる詭弁を弄して、財・官・学の広告塔として、有名になるために声を上げているとしか思えない。

(3) ダムは諸悪の根源

a. 公共事業の罨

川辺川の合流地点より、球磨川の上流域、つまり市房ダムの下流にある「水上(みずかみ)村」は全域で 285 カ所が被災している。8 月 24 日に訪問した水上村住民も一時孤立状態になった。岩野小学校近くの鶴井手橋と温水橋に流れる小河内川(おごうちがわ)も護岸を削られ、田畑に土砂が入り込んでいた。水上村の瀧上(たきがみ)奈津夫さん(82 歳)も収穫を楽しみにしていた米ヒノヒカリが損なわれていたことに肩を落としていた。水上村の被害金額は 30 億 649 万 4000 円と報じられていた²²。川辺川ダム建設予定地と球磨川との合流点より、上流球磨川域に位置する湯前町(ゆのまえまち)猪鹿倉(いのかくら)中猪(なかい)の国道 219 号沿いでは田んぼに山崩れによって土砂が覆っていた。湯前町では 40 世帯 93 人が

¹⁷ 拙論「第 1 次球磨川(熊本豪雨)ボランティア報告(神戸国際支縁機構 2020 年 1 頁)。

¹⁸ “7 月 3 日午後 3 時から 4 日午前 2 時ごろまで予備放流を実施”『人吉新聞』(2020 年 9 月 6 日付)。

¹⁹ 2020 年 8 月 3 日に、訪問した藤川和彦船長(40 歳)は、舟下りガイドとしての説明も語りながら、観光客を喜ばせてこられた。人吉城跡の向こう岸を出発し、流れのままにゆったりと約 50 分、約 4 キロ進んだ。青井阿蘇神社も眺めながらのコースは人気があつた。100 年以上の伝統があつた。年間 2 万 6 千人が楽しんできた。会社は若者向きのラフティングも経営していたが、全滅となった。

²⁰ 『ダムはいらない—新・日本の川を旅する—』(野田知佑 小学館 2010 年 5 頁)。“田舎では、行政と土建業者がつるんでやる無用の公共事業に、誰も文句をいう人がいないのだ。……カヌー仲間も……それまで澄んでいた川がダムで水が減り濁ると、心から憤慨し、悲しんだ。”

²¹ 『人吉新聞』(2020 年 9 月 9 日付)。

²² 『人吉新聞』(2020 年 8 月 20 日付)。

被害を受けていた。いずれも公共事業川辺川ダムがあろうとなかろうと被害は逃れることができないと地域住民はわかっていた。

『春秋』誌の中で、藤井氏は「ハッ場(やんば)ダム」があったおかげで 2019 年の台風 19 号の猛威にも治水能力を発揮した評価を言及している。はたしてハッ場ダムは貯水能力があったのか。拓殖大学政治経済学部教授の関良基氏は、「ハッ場ダムで貯水したとしても、利根川全体で見れば微々たる効果でしかない。水害を防げるか否かの鍵は、あくまで堤防の強度が十分にあり、決壊を防げるか否かである。江戸川で水害がなかったのは、あくまで堤防が耐えたからです」とダムより堤防強化が優先されるべきとブログで語っている²³。

したがって、公共事業推進の御用学者が茶の間の番組視聴者にダム賛成、リニアが日本を救う、宇宙開発が益になるとさかんに言う。そんな虚偽をテレビ、SNS や書籍などで聞いたとしても、日本全体が立ち止まって考える習慣を身につけなければならない。テレビでもてはやされる学者が言っているからといって、虚言を鵜呑みにしない判断力が必要だ。科学的根拠の裏付けを確かめないと、子々孫々にいたるまで莫大な負債を負わせられる羽目になる。「民衆を惑わす者」としてイエスは律法学者たちによって総督ピラトに差し出された(ルカ 23:14)。しかし、実際には、虚偽りを言って意図的に人々を惑わそうとしていたのは、むしろ知恵ある指導者たちだった。「弟子たちが来て死体を盗み出し、『イエスは死者の中から復活した』と民衆に言い触らすかもしれません」と事実とまったく異なる策略があった(マタイ 27:64)。ダムがなかったから球磨川流域はもっと悲劇だったというのも一種の流言飛語にしか筆者には思えない。「疑う者は救われ、信じる者は救われない」と応答するくらいの識別力があってもいいのではないか。

b. 脱ダムの世界的な潮流

自然の川は魚など水中生物のフィールドである。川は生息地である。アイヌ、ネイティブ・アメリカンや先住民族にとり、川は食糧、薬や文化的な営み、儀式、伝統にとり重要です。多くの野生植物にとっても、川辺、沼地や生態系は自然システムの保護をまもってもらう権利がある²⁴。「実に、被造物全体が今に至るまで、共に呻き、共に産みの苦しみを味わっていることを、私たちは知っています」(ローマ 8:22)に出てくる「被造物」(ギリシア語 κτίσις クティシス *ktisis* は「創造(創設)されたもの、被造物、造られたもの、世界、制度」である。

アメリカは、1929 年の大恐慌 Great Depression 以来、ニューディール政策の一環として大規模ダムを次々と建設した。失業者の雇用にもはずみがついた。景気の回復にも影響を及ぼしたことは日本の中学校教科書にも出ている。1931 年には、フーバー Hoover ダムが出来ている。1933 年のテネシー川流域の TVA(Tennessee Valley Authority)が完成した。しかし、半世紀を経て、アメリカ合衆国のダム専門家ダニエル・ピアード氏は 1995 年 2 月に来日し、日本の財界・官僚・学者たちとパネルディスカッションを行った。日本のダム推進派の建設官僚たちが、「日本の貯水能力は後進国。もっと貯める必要がある」と発言した。1997 年初頭でも米国で建設中の大ダムは 40 基あることや、米国と比較して、日本のダムの

²³ <https://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/6af9d8846b3df045a3725e6f3c3efc01> 藤井氏は、春秋誌 235 ページで、「ダムがほぼ空だったので大量の水を溜め、治水能力を発揮した」という評価を取り上げている。一方、関氏は、「ほぼカラッポのダムが一回の台風で満水になったということは、ふつうに貯水している状態で今回の台風(2019 年台風 19 号)が襲えば、緊急放流に至った可能性が高。いでしょ」と 2019 年 10 月 4 日にすでに反論されていた。

²⁴ 拙論「技術至上主義は自然破壊をもたらすー 第 1 次北海道地震ボランティアー」(2018 年)。
<http://kicc.sub.jp/wp-content/uploads/2017/08/6fd475dd9fe0e47f708cfde21a50a5d6.pdf>

貯水容量は 18 分の1程度しかない現状を日本側は憂えた。公共事業を推進する日本の政・官・財・学は米国の支持をとりつけた一心で訴えた。しかし、ビアード氏は「アメリカにおけるダム建設時代の終焉は、社会資本が充実したことの現れである」と一蹴した。なぜダム撤去をするかの理由は、「構造体の老朽化」、「安全と保全に対する配慮」、「経済的に収益がない」、「レクリエーションの機会」、「水量の問題」、そして「生態系の再生」のため方向転換する価値を考慮したからである²⁵。



1994年5月、アメリカの大型ダム建設機関の開発局前総裁ビアード氏は、ブルガリアで開催された「国際かんがい・排水委員会」の席上、「米国におけるダム開発の時代は終わった」という発題をした²⁶。つまりダムの最大の先進国であるアメリカはダム事業から撤退したことを日本人は知らなすぎる。

筆者は、民衆が川でカヌー、ラフティング、水遊びを享受できる水利権が担保されるように「公共信託」pubic trust を日本でも導入すべきだと考える。森林とダム、どちらが治水効果に優れているのか。森林整備とダム建設、どちらが経済効果が高い公共事業なのかという問いに対する公共的価値を保全するのが「公共信託」である。

日本では、「公共」という言葉が本来の意味から脱線して、浸透している²⁷。公共政策というイメージからわかるように、明治以来の「官」による「有司専制」²⁸、つまり、「公」の独占が、ダム、原発再稼働、空港建設などにおいて、公共事業が強行され続けて、行きづまり観が覆っている。本来、「公共」は民が主導権をもつべきものである。

c. 水利権はみんなのもの

ダムがなくなり、かつて水の底に沈んでいた水路が回復することは地球本来の生態系である。「その日になると 山々には甘いぶどう酒が滴り もろもろの丘には乳が流れ ユダのすべての涸(か)れ谷には水が流れる。主の家から泉が湧き出で シティムの川を潤す」に書かれているように、「水は流れる」のが願わしい(ヨエル 4:18)。本来、川に生息するサケなどの魚も元々の生息地にたどり着けるようになる。サケが産卵する場所は湧き水のある川底である。産み落とされた卵は川底、石の奥の間に収められ、そして冬でも凍ることがない湧き水に包まれて育つ²⁹。

しかし、政・官・財・学、およびメディアべつたりの人々はデーモンを栄光化する。まるで神託を受けた預言者であるかのようにマスコミを媒介として語る。そんな末期的世界にあつて、黙っていることはできない。「私が『もう主を思い起こさない その名によって語らない』と思っても 主の言葉は私の心の中 骨の中に閉じ込められて燃える火のようになります。押さえつけるのに私は疲れ果てました。私は耐えられません」と召命を受けた神からの推薦状を忘却することはできない。否、隠すこともままならない。もはや黙ってはおられない。骨の中に「炎」[ヘブライ語  エシュ *esh*]が着火して、人々に語らざるを得ない献身の原点が押さえなくても押さえなくても「燃え上がる」[ バアル *baar*](エレミヤ 20:9)。ところが、筆者に懐疑³⁰の義認について目を開かせたパウロ・ティリツヒ[1886-1965]は、「我と汝」にあつて派遣される逆説の使命を説く³¹。「この民の心

²⁵ 『ダム撤去』(ダニエル・ビアード 青山己識訳 2004年 56-69頁)。

²⁶ 『アメリカはなぜダム開発をやめたのか』(公共事業チェック機能を実現する議員の会 1996年 16頁)。

²⁷ 『新しい公共性』(山口定共 有斐閣 2003年 20-21頁)。

²⁸ (ゆうし) 明治政府の政治が、政府内の特定藩閥政治家数名で行われていると批判した言葉。学問的には、1873[明治6年]に大久保利通の主導権に始まった官僚政治。

²⁹ 『鮭はダムに殺された』(碑田一俊 岩波書店 2005年 23頁)。

³⁰ 拙論『石の叫びに敏感であろう』(宮城学院女子大学 2017年6月14日 12-15頁)。

<http://kicc.sub.jp/wp-content/uploads/2017/05/67a5e86d0f52f4a1cc7630e6738beec2.pdf>

³¹ 『地の基は震え動く』(パウロ・ティリツヒ 茂洋訳 新教出版社 2010年 123頁)。

を鈍くし 耳を遠くし、目を閉ざしなさい。目で見ず、耳で聞かず、心で悟らず 立ち返って癒されることのないように」と発信しても、人々は無関心、黙殺、鈍感になるようなミニストリーをすすめる(イザヤ 6:10)。人々に寄りそい、スピリチュアルケアに務め、がれき処理に汗をかき、「私は彼の道を見た。私は彼を癒し、導き 慰めをもって彼とその悲しむ人々に報い」というはたらきこそ神からの委ねられたものと筆者は思い込んでいた(イザヤ 57:18)。しかし、神は民を癒さないようにと突き放す。まさに「まことに、あなたはご自分を隠される神」なのか(ハバクク 1:2)。「隠れたる神」(deus absconditus)の面目躍如なのか。否。

文脈は続く。「私は言った。『主よ、いつまでですか。』主は言われた。『町が荒れ果て、住む者がいなくなり 家には人が絶え その土地が荒れ果てて崩れ去る時まで。』」と冷たい返答ではないか(イザヤ 6:11)。復旧、復興、再建の努力はなんの報いもないではないか。筆者は、アナキストでもなければ、反社会的犯罪者でもない。武力革命のコマンドでもない。人類に対する神の裁きを代弁する存在にすぎない。家族、近隣、社会から反発、反抗、村八分に遭遇しようとも、甘受せねばなるまい。割の合わないはたらきである。階級社会の上層部、国家、偽預言者たちの虚偽に鉄槌を絶えず加え続けることになる。

足尾鉍毒事件で自然が脅かされていることに田中正造[1841-1913]は怒った。「土地あり、耕さざるは天の喜ばざるところなり。人道を耕さざれば天人ともに憂いとなす。しかのみならず、土地を荒らし、土地に毒を流し、作物を殺し、人民の食を失わしめるは、更に天地人類のために奸悪の罪人とす」と非権力的な戦いによって、最後まで権力の恣意と戦う意志を捨てなかった³²。田中と同様、管理社会を越える思想を構築せねば、日本はダムによって沈没する。

<結論>

ダムを建設することにおいて、諮問する委員会を招集する際、御用学者、官僚 OB、工事を担当するゼネコンで占めてしまう非公開のやり方はなくさないといけない。住民参加と言いながら、公開説明会にしてもすべて形式的な儀式にし、批判する出席者の意見は聞いても、決定ははじめから決まっている。変えない出来レースではハーバーマスが言う「公開性」(ドイツ語 Öffentlichkeit エッフエントリヒカイト)こそが「公共性」そのものではなくなっている。英語のパブリック public にも「人々」、「民衆」以外に「公開性」がある。だから、「住民説明会」など開かれていること、情報公開性、人権尊重は一見、民主的に展開しているようだけれど、常に、「官」による「公」の独占部隊になっており、「建前」を通過しただけにすぎないと言っても過言ではない。女川第 2 原発の再稼働についての住民説明会も役人が答弁に窮しても、粛々と議事進行はすすみ、「公開」という関門をくぐったりしてきた。

災害大国の被災者対応の在り方としては嘆かわしい。もっと言えば、災害原因を調査する研究者の資質についても毎年、被災地の声を吸い上げるようになってもらいたい。土木関係と国に不利をもたらさない御用学者 puppet scholars(頭の部分が空洞の操り人形) はいろんな利権に絡んでいる。政権に密着、政策を代行する報告をテレビなどメディアが取り上げる。その結果、女川(おながわ)原発 2号機(宮城県女川町、石巻市)も再稼働、川辺川ダム建設など、市民の願いと逆に建設ゴーになっている。「川が流れて行く所はどこでも、そこに群がるすべての生き物は生き、魚が非常に多くなる。この水が入ると、その水は癒され、この川が流れる所では、すべてが生きるからである」(エゼキエル 47:9)。自然が損なわれることがない日本の原風景を神が取り戻す時まで、機構は引き続き、被災地、孤児、シングルマザーと共生しながらも、虚偽に満ちた体制にクリティック[批判]をしていく。

³² 『田中正造の生涯』(木下尚江 文化資料調査会 1966年 561頁)。

説教原稿を神戸国際支縁機構の村田充八理事に校正していただきました。また不明瞭な箇所について訂正していただきました事務局の翻訳家徳留由美氏, 佐々木美和氏, 村上裕隆氏にも感謝します。